

JAトピックス

2025年1月



年頭にあたって

代表理事組合長 中村 政昭

新年あけましておめでとうございます。令和7年の新春を迎え謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

組合員の皆様におかれましては、ご家族お揃いで、ともに輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶びを申し上げます。

営農を振り返ってみますと、雪解けが進み好天にも恵まれ、播種作業はおおむね順調に推移いたしました。小麦は春先からの生育が良好で豊作が期待されましたが、7月からの高温・干ばつの影響により結果的には平年作となりました。てん菜については、徹底防除により病害虫を最小限に抑制できたことが高収量に繋がりましたが、糖分は平年をやや下回りました。その他の作物においては平年並みの収穫量でした。

酪農においては、北海道は生産基盤の立て直しを目指しておりますが、飲用乳の消費は安定せず、またバターと脱脂粉乳の需要の乖離といった問題が、今もなお課題となっている状況です。畜産についても、物価高に伴う消費の低迷から和牛素牛価格が大幅に下落しており、情勢は厳しさを増す一方です。

さて、令和6年度の農協事業は、現時点の仮決算においては当初の事業計画を上回る見込みであり、これもひとえに皆様の営農努力の賜物と深く敬意を表す次第であります。事業年度も残すところあと2ヶ月あまりとなりましたが、さらに誠意努力してまいりますので引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

昨年には「食料・農業・農村基本法」の改正法が成立し施行されました。1999年の制定から四半世紀を経て初めての改正となり「食料安全保障の抜本的強化」「スマート農業技術を活用した生産性の向上」などが新たに盛り込まれております。「食料安全保障」という基本理念のもと、豊かなくらしが実現できるよう農畜産物の安定供給に最善を尽くすとともに、生産性の向上や合理的な低コスト化に向けた取り組みを、組合員の皆様と連携を図りながら進めてまいります。

また、昨年は3年に一度のJA北海道大会が開催され、将来ビジョンである「力強い農業」と「豊かな魅力ある地域社会」の実現に向け、組合員・JA・連合会がそれぞれの役割を再確認するとともに、地域や組織の実態に応じた実践方策を設定し、取り組んでいくことを決議いたしました。

今後とも地域に根ざした協同組合として組合員をはじめ地域の人々と共に歩み、「信頼・利用・満足されるJA」の経営理念をもとに、役職員一同、令和7年度事業を進めていく所存であります。

新年も天候に恵まれ、災害もなく豊穰の秋を迎えることができますよう、あわせて組合員ご家族の皆様のご健勝を祈念してご挨拶いたします。



新年を迎えて

代表監事 七海 義浩

組合員の皆様、新年あけましておめでとうございます。ご家族お揃いで健やかな新春をお迎えのことと心よりお慶びを申し上げます。また、日頃より農協事業運営にご理解とご協力をいただき感謝とお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、元旦に発生した能登半島地震、翌日の羽田空港での航空機衝突事故と心が痛む年初めとなりました。3年続いた「コロナ禍」は落ち着きを見せ、経済活動は回復基調にあるものの、農業情勢は依然として厳しい現状が続いております。

営農においては、春の天候に恵まれ春耕作業は順調に進みました。生育期は一昨年ほどの猛暑にはならなかったものの、高温・干ばつ傾向が続き、作物の生育は早まりました。小麦は豊作が期待されましたが、高温の影響で登熟期間が短縮され平年並みの収量となりました。てん菜は徹底した肥培管理により病害の発生を抑制することができましたが、原料輸送の関係から一部の地域で、収穫時期に小麦の播種作業との調整が必要となりました。農作物の収量は全般的に平年並みでしたが、収穫時期の天候にも恵まれ、作業が順調に進んだ1年でした。

畜産は、飼料価格の高止まりや販売価格の低迷が農業所得に大きな影響を与えております。また、乳製品の需給バランスが崩れ、牛乳の消費減少といった構造的な問題が酪農業の持続的な発展を阻んでいます。

農業情勢は、令和6年5月29日に「食料・農業・農村基本法」の改正案が成立し「食料安全保障の確保」などが基本理念として見直されました。今回の改正をきっかけに、生産コストを考慮した合理的な販売価格が形成されていくことに期待したいものです。

監事会においては、内部監査室と連携した監査業務を通して経営全般の強化に取り組んでまいります。また、不祥事防止の観点からも役職員との意思疎通を密に図り、コンプライアンスの徹底、内部統制の強化を進めてまいりますので、引き続き組合員各位のご協力をお願いいたします。

本年も災害がなく豊穰の出来秋が迎えられるよう、心からお祈りを申し上げ新年の挨拶といたします。



新年のご挨拶

女性部長 伊東 考子

女性部、組合員、ご家族の皆様、新年あけましておめでとうございます。平素より女性部活動にご理解ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、女性部の活動を振り返りますと、前年度から部員数は減少しましたが、その分つながりを大切にして取り組みを進めてまいりました。また、下部組織も女性部の一員ですから、それぞれの活動を尊重しつつも垣根を越えて幅広く交流を持てるよう努めました。

具体的には、6月に下部組織合同交流会を開催しました。これまではパークゴルフ大会を実施していましたが、過去に悪天候で中止を余儀なくされたことがあるため天気に左右されないボウリング大会を企画しました。至る所から「徐々にボールを持った」という声が聞こえる中、個人戦に加えて、ご参加いただいた松田専務理事と磯部女性部担当理事の2組に分かれたチーム戦も行い、大いに盛り上がりました。

7月のバス研修においては、銀鈴会や友の会からも多数ご参加いただき、北広島市方面を訪れました。クボタアグリフロントではハウス内での環境調整やロボット防除、自動化されたレタス栽培など最新鋭の技術について視察しました。隣接するエスコンフィールドではスタジアムツアーに参加し、試合日には入ることができないエリアを見学しました。道中、野菜直売所などにも寄りながら有意義な1日を過ごすことができました。

10月下旬には、お子さんにも楽しんでもらえるようハロウィンパーティーを企画しました。お互いの仮装を見ては笑い合い、息を呑むような装いには感嘆の声を上げるなど、大変盛り上がりました。初めての試みでしたが、楽しいひとときを過ごすことができました。

今後とも、農協を軸にしながら情報交換や学びを皆さんと分かち合い、一人ひとりがより元気になるような活動を進めてまいりたいと考えております。より一層のご理解をいただき、さらなるご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新年のご挨拶

青年部長 塚本 成貴

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。また、日頃より青年部活動に対しましてご理解とご協力をいただいております皆様方には改めて感謝を申し上げます。

昨年の営農を振り返りますと、春先からの好天で主要作物の生育は順調に推移したものの7月からの高温・干ばつの影響によりほとんどの作物が平年並みとなりました。気温30℃以上の真夏日を何度も記録するなど、農作物や家畜にとって過酷な気象条件となった1年でした。

農業情勢においては、生産コストの高止まりと販売価格の伸び悩みが経営を圧迫し、高齢化による担い手不足といった問題も全国的に進行しております。

しかし、このような状況下だからこそ、私たち農業青年が果たすべき役割は大きいと考えます。命を支える食と農の大切さを多くの人に訴えながら、力強い農業づくりに貢献していきたいです。

さて、青年部活動に目を向けますと、6月に実施した農協施設の環境整備を皮切りに、7月には恒例行事である役職員とのパークゴルフ大会を行い、楽しく交流を深めることができました。10月には札幌南小学校の3年生を対象に食育推進事業を実施し、てん菜についての「収穫体験」「青空教室」「機械見学」を行いました。子供たちの食と農に対する関心は想像以上で、疑問に感じたことを次々と聞いてくる積極的な姿勢に感銘を受けました。

研修では、東洋農機（帯広市）やヤンマーアグリジャパン（江別市）などを訪問し、最新鋭の農業機械を視察しました。ICTを活用したスマート農業や、コスト低減に向けた営農技術について学びました。

私たちは、絶えず変化する世界的な農業情勢に対応していくため様々な経験を積みながら農業技術の向上や知識の研鑽を怠らず、的確な情報発信を継続していきます。そして、盟友一人ひとりの意思と行動を結集し、さらなる組織力の強化を目指します。

最後になりますが、本年も変わらぬご支援ご指導をお願い申し上げますとともに、部員各位そして組合員の皆様のご健康とご多幸を祈念し、年頭の挨拶といたします。

青年部食育推進事業

令和6年10月28日、幕別町食育推進事業が当組合青年部の協力により開催され、札内南小学校の3年生98名が参加しました（教育委員会主催）。

前年度に引き続き、塚本義彦さん（千住地区）のてん菜圃場をお借りして「収穫体験」「青空教室」「機械見学」を行いました。

収穫体験では、児童たちは圃場から大きなてん菜を探し、力いっぱい引き抜くという作業に夢中でした。一人で抜けない時は友達と協力する姿も見られ、次々に引き抜いて運んでくる児童たちに青年部員も必死の様子でした。

青空教室では、〇×クイズを通して、てん菜の栽培方法や特性について学びました。児童からは「ビートはいつからあったんですか」「葉っぱは緑色なのにビートが白いのはなぜですか」といった質問が寄せられるなど、意欲的に学ぼうとする姿勢が印象的でした。

機械見学では、青年部員が実際にビートハーベスターを動かしてみると、近くで動く機械の迫力に、多くの児童から「おー！」という歓声が上がっていました。

さわやかな秋晴れが続く中、この日は風がとても強く寒さが心配されましたが、半袖姿が見られるなど寒さに負けない元気いっぱいな児童たちとの充実した食育事業となりました。



女性部ハロウィンパーティー

令和6年10月28日、女性部主催によるハロウィンパーティーが農協会議室で開催され、女性部・友の会・銀鈴会から部員9名、お子さん5名がそれぞれ仮装をして参加しました。

今回初めて企画したパーティーでは、会場をハロウィン仕様に飾り付けし、会食やミニゲームを通して親睦を深めました。

仮装は、映画『千と千尋の神隠し』の登場人物に扮したものなど個性的なものばかりでしたが、中にはお子さんが泣き出しそうになるほど本格的な装いもありました。

最後には表彰式が行われ、審査員を務めた中村組合長らが「美しいで賞」などを選出しました。

終始和やかな雰囲気の中、みなさんは楽しいひとときを過ごしていました。

